先日はてがたんにご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回のてがたんは、1月13日 (土)で、「もっと知りたいカモのこと」がテーマです。ぜひご参加ください。
＊市民スタッフの方へ　次回のてがたん下見は、1月8日 (月・祝) の 9:30 からです。

12月の観察コースと内容

●コース：鳥の博物館→ 博物館駐車場の東側の道→ 手賀沼ふれあいライン→ 香取神社 → 藤棚→ 手賀沼遊歩道→ 藤棚の近くでまとめ＆解散
●観察日時と天気： 2017 年 12月 9日 (土)　10:00 ～ 12:00　　晴れ
●参加人数： 24人　(大人 19人、子ども 5人)
●市民スタッフ： 7人 (竹本周平、石原直子、伊東茂子、木村稔、小泉伸夫、染谷迪夫、湯瀬一栄)
●鳥博職員： 2人 (岩本二郎、小田谷嘉弥)

観察した生き物の記録

【鳥類】カモ科：コブハクチョウ、カルガモ、オナガガモ、コガモ／カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ*／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ／クイナ科：バン、オオバン／シギ科：タシギ／カモメ科：ユリカモメ／ミサゴ科：ミサゴ／タカ科：トビ／キツツキ科：コゲラ／モズ科：モズ*／カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス／シジュウカラ科：ヤマガラ、シジュウカラ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ウグイス科：ウグイス／エナガ科：エナガ／メジロ科：メジロ／ムクドリ科：ムクドリ／ヒタキ科：シロハラ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ／アトリ科：シメ／ホオジロ科：ホオジロ、アオジ、オオジュリン／（家禽および外来種）ドバト

【甲殻類】サワガニ科：サワガニ

【昆虫】チョウ目：ヤマトシジミ、モンシロチョウ*、ヒメアカタテハ*／コウチュウ目：ナナホシテントウ／バッタ目：フキバッタ*、ツチイナゴ*／カマキリ目：コカマキリ／カメムシ目：ヨコヅナサシガメ／ハチ目：クロホシハバチ幼虫、ミツバチの仲間* 、トックリバチの仲間（巣）／ハエ目：ハナアブの仲間

【クモ類】ジョロウグモ、コモリグモの仲間

【植物（花）】ツバキ科：サザンカ、ヤブツバキ／バラ科：ビワ／スミレ科：スミレ／ウコギ科：ヤツデ／ゴマノハグサ科：オオイヌノフグリ／キク科：オニノゲシ、ノゲシ、ハキダメギク、セイヨウタンポポ、ハハコグサ、コセンダングサ、セイタカアワダチソウ／イネ科：セイバンモロコシ／アブラナ科：ナズナ／シソ科：ホトケノザ／カタバミ科：カタバミ

【植物（果実）】ブナ科：シラカシ、コナラ／センリョウ科：センリョウ／ツヅラフジ科：アオツヅラフジ／クスノキ科：シロダモ／アサ科：ムクノキ／カタバミ科：カタバミ／ウリ科：カラスウリ／ヤブコウジ科： マンリョウ／シソ科：コムラサキ／アカネ科：ヘクソカズラ／ユリ科：サルトリイバラ／イネ科：セイバンモロコシ

【地衣類】ダイダイキノリ科／ムカデゴケ科／チャシブゴケ科／モジゴケ科／ウメノキゴケ科／マルゴケ科／レプラゴケ科

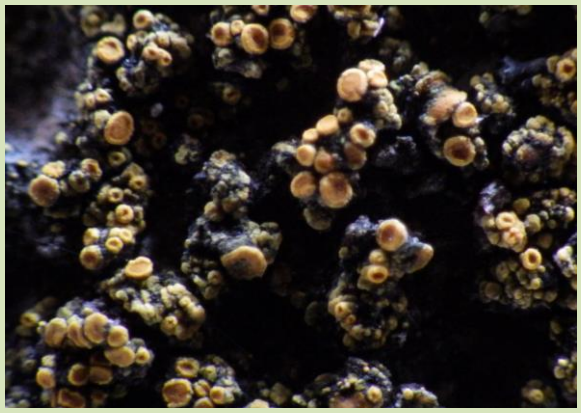
（注）*印は12月3日の下見の時に確認した種

観察した生き物の記録

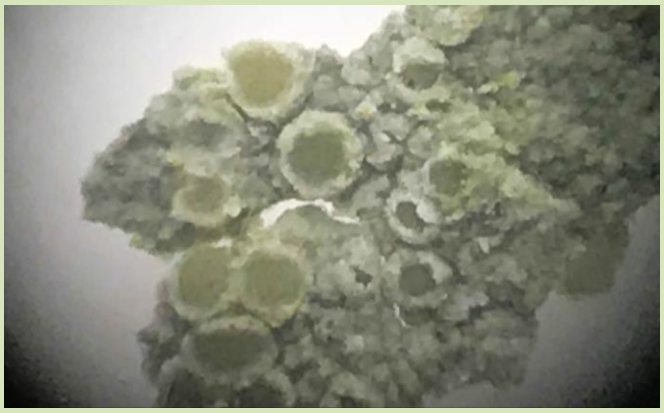
今回のてがたんのテーマは「地衣散歩（ちいさんぽ）」でした。

尾形光琳や川合玉堂の金屏風にも登場し、日本画をひきたてる名脇役、「地衣類」。その姿を冬の野原や神社で探してみました。案内人の竹本周平さんと石原直子さんがコケ植物との見た目の違いや、形状による分け方など分かりやすく解説して下さったお陰で、普段は見落とすことも多い地衣類を識別できるようになりました。そうなると、普段の見慣れたコースでも、また違った景色に見えるようになりました。お天気も素晴らしく、気持ちのよいひとときでした。

今月の案内人　竹本周平さん　石原直子さん



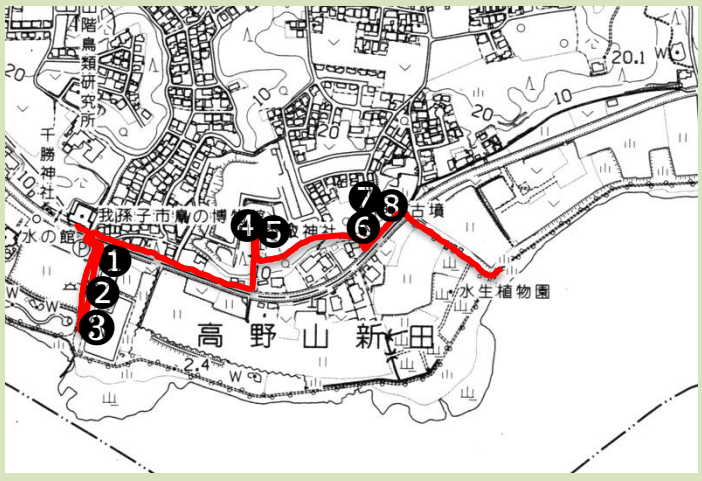
❶コンクリートに生えていたダイダイキノリ科



❷木の幹に生えていたチャシブゴケ科

❸1ヶ所でしか見られなかったウメノキゴケ科

❹神社の銀杏にはムカデゴケ科がびっしり



歩いたルートと観察した生き物

❺神社の木の幹ではモジゴケ科も発見

❻コカマキリはカマの内側の模様が特徴的

❼陶芸作品のようなトックリバチの仲間の巣

❽サワガニの子どもが見つかりました

今月の鳥　シメ　スズメ目アトリ科

全長18cm。ヒバリより大きくモズより小さな鳥で、関東地方には冬になると飛来します。短くて太いくちばしが特徴的ですが、これで木の実の種を割って中身を食べます（種子だけを食べて、まわりの甘い部分は捨ててしまいます）。噛む力は30kg以上あるともいわれ、人間がペンチを使って握り潰すのと同程度ということになります。春には木の新芽もついばみます。夏には昆虫も食べますが、中でも主に甲虫を食べるといわれます。夏は北へ渡って繁殖し、日本では北海道で少数が繁殖します。種名の由来については、詳しいことは分かっていませんが、奈良時代の万葉集や伊予国風土記（いよのくにふどき）には、“ひめ”や“しめどり“といった記述が残っており、平安時代も“ひめ”と”しめ“が両方使われていたようです。それが江戸時代になると”しめ“に統一されるようになりました。

短くて太いくちばしが特徴のシメ。悪者顔といわれてしまうこともあります。

てがたんにご参加ありがとうございました。次回もお待ちしております。